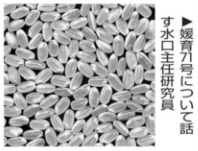
水稲新品種「媛育71号」
用途が広く多収

飼料、酒造、米粉など加工用に高い適性
多肥でも倒伏に強い

愛媛県農林水産研究所が育成

【愛媛支局】愛媛県農林水産研究所で育成された「媛育71号」が、2016年産から本格栽培に向けて動き始める。昨年3月に品種登録を申請した媛育71号は、玄米タンパク質含有率が特徴で、酒造用の掛け米や飼料用など用途の広い中生の多収品種だ。

▶媛育71号について話す水口主任研究員



◀媛育71号の栽培圃場

▲媛育71号はヒノヒカリより粒が大きい

県の特認品種

媛育71号は、「媛育50号（愛のゆめ）」と「関東202号」を交配し、14年に最終調査を完了した。

食味が良い多収品種を目指して開発を進めた結果、「ヒノヒカリ」と比べ10㌃当たり収量が約13%多く、品質も同等という調査結果が出ている（表参照）。多収性専用品種として、14年10月に愛媛県特認品種に認定された。

栽培が容易

県農林水産研究所の水口聡主任研究員（46）は、「従来品種に比べると際立って倒伏しにくく、収量が多く栽培しやすい。飼料用米をはじめ、酒米や米粉など加工用米としての適性が高いことから、さまざまな利用が期待される。今後は、飼料用米としての安定多収生産技術と、酒米としての高品質生産技術をそれぞれ確立するとともに、加工品に利用するための研究も進めていく」と話す。

昨年は6㌔の作付けがあったが、16年産は県全体で1000㌔を作付ける予定だ。愛媛県は、18年度には非主食用米の作付け比率を水稲作付面積の10%（約1500㌶）に広げる生産計画を立て、増産を見込んでいる。

松山市の栽培農家・西岡秀樹さん（51）は、「分けつが良く、多量施肥をしても倒伏はなく、多収量なので飼料用米には最適です。今年は、昨年の2倍の作付けをします」と意欲を見せる。

交付金の支援も受けられ農家の収入の面でも有利な媛育71号。県の水田フル活用ビジョンの核の一つとして、今後の栽培増が期待されている。（白石和夏子）

徳島支局
〒770-8054
徳島市山崎西2丁目74番地
℡088(622)7731

香川支局
〒761-8083
高松市三名町東原5-6
℡087(888)2121

愛媛支局
〒790-0002
松山市二番町4-4-2
℡089(941)8135

高知支局
〒780-0861
高知市升形10-5
℡088(822)4346

生育・収量と品質（普通期栽培）

品種名	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	倒伏 0−5	精玄米重 kg/a	収量比 %	千粒重 g	整粒歩合 %	玄米タンパク %	品質 1−9	検査等級
媛育71号	8/27	10/12	78	21.4	286	0.0	55.6	113	22.9	71.5	7.3	4.4	1.5
ヒノヒカリ	8/25	10/6	81	20.0	321	0.0	49.3	100	22.4	70.9	7.6	5.0	1.6

※2003〜08年は生産力検定試験、09年は奨決（予備調査）、10〜14年は奨決（本調査）の成績
※外観品質は上上(1)〜下下(9)の9段階評価　※定植日：6月15日ころ

人生楽しく ✣20

荒野 茂（しげる）さん　香川県まんのう町

【香川支局】プロフィル✣55歳✣ハウスミニトマト15㌃、水稲40㌃✣まんのう町

―趣味は何ですか？

旅行が好きです。特に最近は、〝鷲馬〟のハーレーで気心の知れた仲間と行くツーリングにはよくいっています。

―いつからバイクに？

16歳で免許をとり、10年くらいは乗っていました。その後、家族ができ車中心の生活となり、専業農家に転じたことも重なって、自然に乗らなくなっていました。それでも、いつかはまた乗りたいという気持ちは持ち続けていました。農業が軌道に乗り、子供に手がかからなくなった10年前くらいに一念発起して大型二輪免許を習得しました。それからはハーレーざんまいです。

―どのように楽しむ？

普段は日帰りツーリングを走ります。4、5泊子供を連れて、1日500から600㌔走ります。

ハーレーダビッドソン

ツーリング
ハーレーで全国走破中

―ツーリングに出かけ、滴喫してきた？

―どこに行きましたか？

秋田と青森以外は走破しました。北海道は何度訪れても感動します。毎年行きたくなります。

―魅力は何ですか？

旅行ですから、もちろん旅先での食事や観光は楽しみです。しかしそれ以上に、バイクに乗ることが純粋に好きです。また、バイクを通じて知り得た仲間も魅力です。農業者は私一人ですが、現役の会社員や自営業者、仕事をリタイアされた人など多種多様な構成で、いろいろな知識を得ることができます。

―今後は？

今夏は、オーストラリアに走りに行く予定です。頼りになる仲間がいますので、心配もないです。これを足がかりにいつかはアメリカ大陸を横断したいです。（大野和人）

長野県の美ヶ原高原で荒野さん（昨年8月）

まきストーブでハウス加温
雑木が燃料　経費を削減

イチゴ　藤崎 盛清さん・土庄町

【香川支局】「休耕地の保全管理と兼ねね、雑木を栽培する藤崎盛清さんに使っている。ハウスの燃料代は、15%ほど削減できた」と、土庄町豊島唐櫃でハウスイチゴ19・8㌃（68）。まきストーブを導入し、農地保全と暖房費の削減に役立てている。

島の後継者不足は深刻で、田畑だった場所は急激に山へと変貌。豊島では、まきに困らない」と、農業共済新聞の広告欄に掲載されていた「ゴロン太」を、

まきストーブ（左写真も）と藤崎さん。イチゴ栽培歴は17年になる

2011年に購入した

まきストーブは、筒の部分が直径約50㌢で、高さは1.20㍍。休耕地に生える雑木は、丸太のまま長さをそろえずに入るため、まきを作る時間と労力はさほどかからない。

最初は点火で失敗し、ハウスの中が煙で充満させたこともあったという。現在は、温まった空気をハウス内に拡散させるため、昔使っていた扇風機を置いて試している。

藤崎さんは「また改良が必要。もっと効率的に空気を動かす方法を模索していると話す。（岡田奈司）

つぼみ菜の出荷が最盛
品質向上へ意欲

有田 幸司さん・宿毛市

【高知支局】新しい野菜50㌧、オクラ30㌧、冬アロッコリー50㌧、つぼみ菜10㌧の栽培に取り組む、毛市和田の有田幸司さん（41）。出荷最盛期を迎え、農家の収入の面でも有用な媛育71号。県の水田フル活用ビジョンの核の一つとして、今後の栽培増が期待されている。（白石和夏子）

つぼみ菜の畑で、わき芽を手に有田さん

有田さんは高校卒業後、神戸で就職。14年前にUターンし、両親の八郎さん（71）、初子さん（68）と共に露地野菜（春ブロッコリー、つぼみ菜、オクラ）を栽培する。中華料理の具材や天ぷらにすると食味が良い。有田さんは、3年前にソ

利用するための研究も進めていく」と話す。

昨年は6㌔の作付けがあったが、16年産は県全体で1000㌔を作付ける予定だ。愛媛県は、18年度には非主食用米の作付け比率を水稲作付面積の10%（約1500㌶）に広げる生産計画を立て、増産を見込んでいる。

松山市の栽培農家・西岡秀樹さん（51）は、「分けつが良く、多量施肥をしても倒伏はなく、多収量なので飼料用米には最適です。今年は、昨年の2倍の作付けをします」と意欲を見せる。

交付金の支援も受けられ農家の収入の面でも有用な媛育71号。県の水田フル活用ビジョンの核の一つとして、今後の栽培増が期待されている。（白石和夏子）

つぼみ菜の出荷が最盛
品質向上へ意欲

有田 幸司さん・宿毛市

【高知支局】新しい野菜50㌧、オクラ30㌧、冬アロッコリー50㌧、つぼみ菜10㌧の栽培に取り組む、毛市和田の有田幸司さん（41）。出荷最盛期を迎え、農家の収入の面でも有用な媛育71号。県の水田フル活用ビジョンの核の一つとして、今後の栽培増が期待されている。（白石和夏子）

つぼみ菜の畑で、わき芽を手に有田さん

有田さんは高校卒業後、神戸で就職。14年前にUターンし、両親の八郎さん（71）、初子さん（68）と共に露地野菜（春ブロッコリー、つぼみ菜、オクラ）を栽培する。中華料理の具材や天ぷらにすると食味が良い。有田さんは、3年前にソ

両親と一緒に有田さん

Aの営農指導員の勧めで春冬のブロッコリーの間作として試験的に耕作。当時、耕作するのは管内で3人だったが、現在は9人に増加している。

「つぼみ菜は病気に強く栽培しやすい。消費者からは「おいしい」と評判がいい。今後も両親と力を合わせ、低農薬で高品質を目指して頑張りたい」と話してくれた。（橋本哲也）

えがお

猫と暮らす家を建てたい

陰山 麻由さん

【高知支局】「動物が好きで、その中でも猫が大好きです」と笑顔を見せるのは、安芸市の陰山麻由さん(25)。

現在、市役所で臨時職員として勤務している。

祖父が肥育農家だった麻由さんは、北海道の帯広畜産大学を卒業。在学中は、アルバイトで約500頭の牛を5時間かけて搾乳したこともあるという。

猫を2匹飼っており、「猫と一緒に暮らすための家を建てたい」と、夢を話してくれた。